

# 第1回 明石市緑の基本計画改定検討委員会 議事録

## 1. 開会

---

委嘱状お渡し及び本日記付資料の確認

(1) 開会あいさつ（東 都市局長）

(2) 委員の紹介

委員長及び委員のご紹介

(3) 委員長あいさつ（平田委員長）

あいさつ及び議事録署名の指名（委員2名）

## 2. 議事

---

(1) 明石市緑の基本計画改定の背景・スケジュール等について

事務局より説明（資料1）

（委員長）

市の総合計画などの改定状況は？

⇒（事務局）

6次長期総合計画（SDGs推進計画）は一昨年度、都市計画マスタープランについては昨年度に行っている。

（委員A）

社会情勢等の変化として、この10年で、緑と緑地の役割について十分な認識が進み、新しい生物多様性国家戦略の中でも緑地の大切さと、これから緑を守っていくということがきちり書かれている。キーワードのひとつが、ネイチャーポジティブ。やはり自然が資本であり、健全な自然環境によって初めて社会、経済が成り立つ。緑の防災機能など他にもいろいろあることを踏まえる必要がある。新たな生活様式については、より具体的にイメージできることが重要。

⇒（事務局）

○生物多様性の観点でも、明石ならではの、その自然環境豊かな土地ということを最大限生かした計画にしていきたいので、今後もそういった積極的なご意見を頂き、少しでも計画に反映させていきたい。

○新たな生活様式のイメージについて、公園愛護会による清掃活動もなかなかできないようなこともあったが、今後も、地域住民の方のつながりや愛護会活動はしっかり継続していきたい。

○コロナ禍で密を避けていた時期にも、公園はオープン空間として、そうなりにくいという側面がクローズアップされたこともあり、いろいろな観点で利活用を図っていけるとよい。

⇒（委員長）

コロナ禍により、働き方も変わり、結果として、住んでいる町への関心も高まった。

在宅勤務が増えてくると、働く世代の人たちが地域にいる時間も長くなり、地域活動に参加する

という機会も増えてきたりする。

事例として、駅前の公園の中の使用されていない管理事務所をリモートワークのオフィスとして、仕事できるように実験を行ったところ、営業の人たちがリモートオフィスを仕事中に探してきてもらえたりしたことがあった。ポストコロナの時代では、公園には、遊び場というだけではなく、仕事場にもできるといった新しい役割も期待できるのではないかと。

## (2) 現行計画の点検・評価について

事務局より説明（資料2-1、資料2-2、資料2-3）

（委員 B）

藤江校区という地域の魅力の一つが田園風景だったが、平成11年から平成21年、令和元年にかけて、人口移動でたくさんの方が移ってこられ、プラスの面もあるが、田畑を潰して宅地となった結果、緑が少なくなってしまうている。時代の流れで仕方ないところもあるが、効果としてそれらに代わるような緑地の核というものを考えていただきたい。そういう形の生活様式の変化に伴った、緑の核としてはどのように考えているか？

⇒（事務局）

藤江地区は立地的にも非常に便利な地域で、緑地をいかに守るかが行政の務めと認識している。3000㎡を越えるような宅地開発においては一定規模の公園を作るという条例以外に規制がないのが今の実情である。この計画でも、そのような緑を守るような施策を一つでも入れられるように考えたい。

⇒（委員長）

近年、虫が触れない子どもが増えている。子育てが充実したまち、というからには、子どもたちが外で元気に遊び、虫や花と戯れる環境を持ったまちにしていかなければならない。農地は農家が所有しているので、すべてを強制的に残す、というわけにはいかない。緑の面積を増やすだけではなく、その中に虫、虫、鳥がいて、そういうものと触れ合えるような空間を作っていくということが、本当の子育て環境を良くするということにつながると思う。

（委員 A）

進捗状況の評価案という表に、各目標に向けて進めたプログラムの平均点で整理されているが、平均点だけ見ても、各取り組みとして、次に何を頑張るのか明確にならない。

⇒（事務局）

具体的取組（大項目）の進捗評価として平均点で表現したが、（そのうち各課の）個別施策の評価点が低いものを把握して、今後の対応を考えることは大切である。各課の達成度評価（評価点）は、資料参考2-3により把握したい。

（委員長）

資料2-3の評価値は、中間地点それとも最終地点のどちらか？

⇒（事務局）

中間地点は平成28年での評価。今回資料は、平成28年10月以降の取組による最終的な評価結果である。

（委員 B）

藤江の駅前では、約95名のボランティアで、山陽電車のお店を集い場に借りて、オアシスというサロンを設けて活動している。そのうち、緑、花が好きな約20名が花壇を担当し、自主的に花

壇の世話をするので、花壇コンクールだけでなくまちづくり協議会から補助金を出している。自分たちで花壇整備をして、山陽電車の利用者には非常にいい環境づくりをしている。花が好き、樹木が好きな方で、自ら喜んで作業して、達成感も得られている。

(緑の基本計画の) 施策表(資料)には、明石市(行政)の役割(取組)だけで、住民は何をしたらいいのかが書かれていない。住民としての緑化の推進という視点がない。住民へのPRや広報などをより市の方で取り組むとともに、住民と地域と行政が一緒になって、その緑のある地域づくり、環境に優しい地域づくりをやっていくという観点で考えたらよいと思う。

⇒(事務局)

現在、緑化重点地区ということ、JRの朝霧駅、明石駅、西明石駅、大久保駅、魚住駅、山陽電鉄の東二見駅の周辺で、緑化ボランティアさんに花壇のお世話をしていただき、市民と行政との連携を図っている。地域150参加団体の方が作った花壇をコンクールとして評価する『花壇コンクール』も、市民連携として取り組んでいる。

花壇コンクールに参加してもらい、地域の潤いを、緑をもって安らぎや憩いの場となるよう、花壇コンクールの参加団体募集について広報あかしでPRしている。地域と市がしっかりと連携して、地域の緑を増やしていけるよう、今回計画に反映させたい。

### (3) 市民の意向について

事務局より説明(資料3、資料3参考)

(委員F)

花壇コンクールという明石市の取り組みを知らない市民が多いのではないかと。趣味を生かせる場をいただき、私自身は大変喜んでやっている。頼まれてやっているというよりも、よくやらせてもらえるようにしていただきたと感じており、自分以外にもこういうことを知ればやりたいという人がいるのではないかと。思う。

⇒(事務局)

改めて、行政の宣伝不足や広報不足を痛感している。

市民の方に知っていただき、参加団体を増やしたいという思いから、広報あかしに掲載することで、先日も3団体から花壇コンクールに参加したいというお声をいただいた。

花壇づくりは地域の方のコミュニケーションづくりに役立ち、その花壇を見た方にとって心の癒しにつながると考えており、また、花と緑があふれている街は犯罪も少ないという話もあり、今後もより一層、街なかのきれいな緑を増やすことに努めたい。

(委員G)

地域への恩返しとして自治会活動を始め、道路アダプトでできた土地を活用して花壇コンクールに応募するようになり、去年、花壇コンクールで優秀賞をいただいた。花壇ボランティアやコンクールのことを聞かれ、写真を見せるときれいねと言われ、大変やりがいを感じる。日々の活動により、道を聞かれたり、声をかけられたりと、コミュニケーションも生まれてくる。

緑の基本計画では、JRの駅に比べ、山陽電車の駅は東二見と明石だけである。本日、藤江の方の街の活動も聞き、中八木駅でも駅を通じた街づくりというのもお願いしたい。駅周辺には、遺跡公園や城西高校、医療センターがあり、多くの利用者がある。山陽電車の駅も検討してほしい。また、子育て中の方は難しいかもしれないが、募集すれば、花壇、緑のボランティアはいるのではないかと。

⇒(事務局)

前回計画の改定時は、ボランティア活動が明石駅前だけであり、各地域に一駅ずつ程度として、

朝霧駅、大久保駅、魚住駅に広げていく計画を立てた。その後、ボランティアさんを募り、ようやく明石駅、大久保駅、魚住駅で活動いただけている。

今後は、山陽電鉄の駅も拡充していきたいので、今回の計画に盛り込んでいきたい。

花と緑の学習園では、園内のボランティアから始め、その後、地域での花壇活動につなげるため、ボランティアを増やす取り組みも行っている。

(委員長)

今年の全国花のまちづくりコンクールでは、各駅を花で飾ってローカル線の廃線の危機を救い、活性化を図っている静岡のまちが大臣賞を受けているが、明石市内の山陽電車のすべての駅前に地元住民の方がお世話するきれいな花があるということで、フラワートレインといったような活性化の方策も考えられる。広報については、市はホームページの更新手間がかかるが、QRコードが効果的だと思う。現場にQRコードを張ると、花壇見て、きれいと思ったら、すぐにアクセスできるようになる。

(委員 F)

駅前で手入れをやっていた際、加古川から引っ越しされてきたという幼児を連れたお母さんが、明石市はあちらこちらにも花壇があると感心して、喜んでいて、現地での広報というお話について、お世話している花壇に自分たちの看板を立ててもらい、その下に、花と緑の学習園という名前も入っている。あとは、電話番号を加えるとよい。花と緑の学習園にもつながるようになると思う。

⇒ (委員長)

電話をかけるより手間のかからないQRコードを入れるのが早いと思う。

(委員 B)

花壇活動は、リタイヤされた70～80歳くらいの方が多い。高齢者はQRコードしたりしないので、やはり人と人のつながりが大切だと思う。

⇒ (事務局)

QRコードも電話番号も入れたいと思う。

(委員 F)

花壇には力仕事もあるので、歳をとって、体力が続かずリタイヤする仲間もいる。やはり60代からやらないと活動できる期間が短い。

(委員 B)

まちづくり協議会で設けているお店(オアシス)では、登録用紙を置いており、それで花壇など希望を書いていただくと登録が完了するという形。駅前にそういう集い場があり、その登録用紙を書けばすぐに入れる状態で、身近にボランティアできるようにしており、若い65歳くらいの方もいる。力仕事というのはよくわかるが、今は20人くらいいるので、いかに花を育てるのが好きという方が本当に多くいると感じる。

(委員 F)

好きな方はいるので、そこを利用したらすごくいいと思う。

#### (4) 緑を生かしたまちづくりの方向性について

事務局より説明(資料4)

(委員 C)

高年クラブは160近くあり、その7割くらいが公園愛護会活動や花壇コンクールに参加して地域の美化等の活動を行っている。長期総合計画の策定に参画した際、環境をとるのか、経済をと

るのかというまちづくりの方向性を考えることは難しいと感じた。

地域の田畑をなくして住宅を建てる際に、面積あたり必要な緑を条例化ができないのかと思う。大久保北部地域には、里山と言われる北部の緑や金ヶ崎公園などがある。これらの将来に向けた環境整備も考えてほしい。金ヶ崎公園は、手入れが行き届いた綺麗な公園であるが、大久保の里山は自然というか、手入れができていない状態だと思う。

(事務局)

3000㎡を越すような戸建て開発の場合には全体面積の3%を公園とすることや、マンション等の建物の場合にはその敷地の一定割合を緑地にすることが条例で定められている。今、もっとも明石市内で多いと思われる、比較的規模の小さい戸建て開発は、個人のお話になるため条例化までは難しいが、他都市の状況や市民の意見をしっかり聞いた上で、検討すべき課題だと考える。

(委員D)

子どもたちを取り巻く環境として、沢池校区には緑道や石ヶ谷公園、上ヶ池公園と公園も非常に多いが、地域によって、公園が少ない地域もある。小学校を中心として緑や公園が増えるとよい。誰もが健やかに生き生きと過ごすことができる場づくりという項目に、我々、子育て世代に当てはまるところが非常に多いと思う。西明石の北エリアでは、上ヶ池公園を中心とした活性化の会議を行っている。子どもたち含め、より住人に愛される公園の姿について話しており、ホテルが生息するような公園があればいいという意見も出た。

また、沢池小学校の上にある野々池の貯水池が、数年後に埋め立てられる。そこを、公園にしたり、沢池小学校の運動場を広くしたり、子どもたちが使える場所にしてもらえるとよい。なお、国道沿いに緑があると環境も変わってくると思う。

(委員長)

学校の校庭というのも重要。全国花のまちづくりコンクールでの話として、富山県の小学校では、学校の先生が地域のボランティアの皆さんと一緒に校庭の緑化、食育、堆肥化という取り組みをしている。

私も、松が丘小学校で、食育のプランターで野菜を育てる実験を行ったが、自分たちが育てた野菜を食べるという経験をすると、食べ物に対する愛着が増え、食べ残しが減ることにつながることを知った。

(委員D)

昨今、PTA活動が弱まってきて、会費収入の減少傾向も見られるので、PTAから学校にお金を渡しての花壇整備が困難になり、予算費用面の課題も懸念される。

(委員長)

費用面の課題はあるが、駅前花壇の話のように活動したい方はいることがわかったので、地域の小中学校花壇においても、そういう存在、可能性はあると思う。

(委員H)

神戸市に入ると緑があったりとか、公園がいっぱいあったり、明石に入ると緑が少ないというイメージがあった。

私には孫がいて、地域にある小さい公園を利用するが、この暑い中、木陰がない。

西明石の緑道では、その貴重な大きな木が切られてしまったことがある。大きくなってきて桜がキレイになってきた頃に、電線に接触するので伐採された。沢池小学校の前の、どこにも負けない、大好きだった桜が切られたことは本当に悲しかった。街路樹を植えるときは、電線を予め埋めてしまうなど考えてもらいたい。

緑だけではなくて、色々なものとの関わりの中で私たちの生活が成り立っている。一市民として、

普通に生活をする中で、木陰を歩く心地よさというのもなかなか実感できないものになってしまっていると思う。

(委員 E)

私が力を入れてほしいものは、街路樹である。

車からもよく目立ち、この街は街路樹が綺麗と感じたりもする。

何年か前に、朝霧小学校や明石高校の周辺の道路の街路樹を切り詰めていたことがあった。今も、棒だけの状態である。大切にしている都市では、キレイな街路樹となっているので、維持管理も含め考えてほしい。

(委員 A)

緑の担い手を育成する持続可能な環境づくりとあるが、この「持続可能な」というのは仕組みのことなので、表現の再検討をお願いします。

⇒ (事務局)

グルーピングからの整理という段階であり、項目立てや文言すべてに関して、ご意見等を踏まえ検討、見直ししていく。

### 3. その他

---

(事務局)

今後、地元説明会や検討委員会の進め方についても、適宜ご相談しながら進めていきたい。

以上

議事録署名人



議事録署名人

